

テーマ「TPP問題点は何か？」 話題提供： 安部 淳 さん
(岐阜大学名誉教授・農業経済学)

例会のはじめに司会の吉田千秋さんから、11月13日に東京で開かれた講演会「今、立憲主義と9条の危機に立ち向かう、鶴見俊輔さんの志を受けついで」に参加され、大江さんや澤地さんらの講演要旨が報告されました。

テーマに入って、安部さんから自己紹介のあと、詳しいレジメに沿って説明されました。

2011年に退職されるころからTPP問題は、議論がはじまったこと。今年、2015年10月に「大筋合意」が伝えられたが、交渉経緯・内容が公表されず、NHKなどメディアも詳しくは何も伝えていない状況が話されました。

本題に入って、TPP問題は富裕層や大企業の意向に応える内容で、日本の農林・畜産・水産分野は壊滅的な打撃を受けることから、自民党の「TPP反対」の公約違反、国会決議の無視であること。さらに、安倍政権の支持率が下がらないのは、経済やアベノミクスに期待する世論を操作していることや、野党がこぞって臨時国会を要求しているにもかかわらず、憲法を無視し応えないのは、TPP問題の追求をかわしたいがためであることが指摘されました。

そして、安倍政権が国内の強い反対にもかかわらず、TPP合意を強行するのは農業分野だけでなく、アメリカのアジア太平洋戦略に根ざしていることが説明されました。TPPに対抗する中国のアジアインフラ投資銀行(AIIB)と経済圏の構築、そして東・南アジアにおける軍事的台頭に対抗するために、安全保障と一体化してTPPは押し進められていることが述べられました。そうした中で、集団的自衛権を行使する安全保障関連法案を強硬可決するに至る安倍政権は、日米安保条約の対中国に対する攻守同盟の一層の強化、軍事的一体化とともに、アジア太平洋経済圏の支配を相互利害としていることが明かされました。

とくに、安倍政権の対米隷従ぶりは12年8月の「第3次アーミテージ・レポート」で示された対日政策がそのまま受け入れられており、日本売りの姿がうきぼりにされました。

日米二国間協議で自動車・保険の譲歩、「農畜産物の関税撤廃」の合意により農業つぶしが避けられないことや、ISD条項により外国企業が主権国家に介入・支配する問題、また遺伝子組み換え食品・食品添加物など食の安全性の問題などが指摘されました。

TPP問題の提起をいただいたあと、質疑・感想などが出しあわれました。問題の大きさと根深さを感じ、反対の声をあげていかねばならないとの思いを強くしたところです。